

講義録レポート

講義録コード

00-6-11-104-01

講 座	簿記検定講座	科目①	アドバンス講義
目標年	2016年6月合格目標	科目②	商会 I
コース	1 級レギュラーコース	回 数	1 回
		合格テキスト	Ver.11.0
用 途	☒ 個別DVD ☐ 集合DVD ☒ WEB通信 ☒ DL通信 ☒ DVD通信 ☐ 資料通信		

収録日	2015 年 11 月 24 日		
講師名	石川 貴大 先生	内 訳	板書枚数
			0枚 ※レポート 含まず
			補助レジュメ枚数
			19枚
		その他 (下記参照)	6枚

授業構成	前半 105分 → 休憩 10分 → 後半 69分		
実施テスト	有 ・ ☒ 無		
対応テスト	<ミニテスト>		
	<答練・演習>		
使用教材	●基本テキスト 合格テキストⅠ P. 138 ～ P. 167		
	●レジュメ	[] P. ～ P.	
	●その他	[] P. ～ P.	
配布教材	●教材(テキスト・問題集) ()		
	●補助レジュメ	() 19 枚	講義録添付 (有・無)
	●その他	(学習進度表、正誤表) 6 枚	講義録添付 (有・無)
備考	＊個別DVD受講生の方へ＊ 正確な講義時間につきましては、DVDケースの背表紙下に記載されていますので適宜ご確認下さい。 (例) ①51 記載の場合、前半講義 51分 (答練・演習の場合は、解説もしくは事前講義 51分を表します)		
	～個別DVD・Web受講生各位～		
	黒板を写すカメラのスイッチング(切替)は講師が行っている都合上、映像中に一部講師が画面に写らない場合もございますが、故障ではありません。音声及び本講義録をご参照の上ご受講ください。受講生の皆様にはご迷惑をおかけいたしまして申し訳ございません。		

TAC簿記検定講座

テーマ 04 割賦販売（P120～）

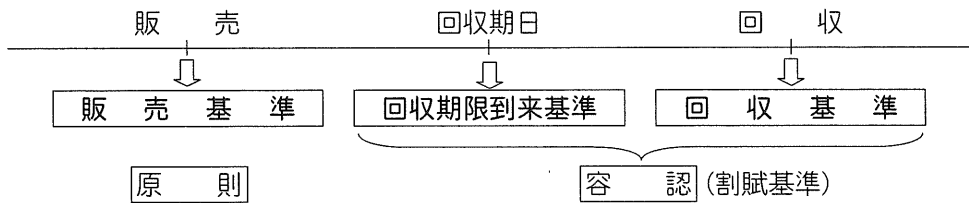
1 割賦販売とは

長期間の分割で代金の回収が行われる販売形態

2 割賦販売の売上収益の計上基準

割賦販売は、代金が長期にわたる分割払いにより回収されるため、貸倒れの危険率が高いなどの理由により、販売基準（原則）のほかに回収基準・回収期限到来基準による収益計上が認められています。

販 売 基 準	： 販売したときに収益計上
回 収 基 準	： 回収した（お金をもらった）ときに収益計上
回収期限到来基準	： 支払期限が到来したとき（回収していなくても！）に収益計上



3 売上収益の計上基準と会計処理方法の組み合わせ

収益の計上基準		処 理 方 法
原則＝	販 売 基 準	ふつうの三分法
容認	回 収 基 準	対 照 勘 定 法
	回収期限到来基準	未実現利益整理法

【メモ】

4 回収基準（未実現利益整理法）

未実現利益整理法とは、期中は仕訳を簡略化するために販売基準と同様（販売したら収益計上）に処理し、期末に回収基準または回収期限到来基準による利益に修正（未実現利益の整理）する方法

〈仕訳のまとめ〉 回収基準を前提（金額は設例4-2、4-3）

回収基準（未実現利益整理法）

	期 中			
仕 入 時	（ 仕 入 ）	90,000	（ 買 掛 金 ）	90,000
販 売 時	（ 割 賦 売 掛 金 ）	100,000	（ 割 賦 売 上 ）	100,000
代金回収時	（ 現 金 ）	40,000	（ 割 賦 売 掛 金 ）	40,000
+				
	期 末			
売上原価	（ 仕 入 ）	0	（ 繰 越 商 品 ）	0
の 計 算	（ 繰 越 商 品 ）	15,000	（ 仕 入 ）	15,000
+				
利 益 の 整 理	（ 繰 延 売 上 利 益 ）	0	（ 繰 延 売 上 利 益 戻 入 ）	0
	（ 繰 延 売 上 利 益 控 除 ）	15,000	（ 繰 延 売 上 利 益 ）	15,000

繰延売上利益

戻 入	0	前 T/B(期首)	0
B/S	15,000	控 除	15,000

〈財務諸表〉

損 益 計 算 書

I 売 上 高		100,000	← 当期販売高（販売基準）
II 売 上 原 価			
1. 期首商品棚卸高	0		
2. 当期商品仕入高	90,000		
合 計	90,000		
3. 期末商品棚卸高	15,000	75,000	← 当期販売高に対する原価
修正前売上総利益		25,000	← 当期販売高に対する利益
繰延売上利益戻入		(+) 0	← 利益の調整
繰延売上利益控除		(-) 15,000	
売 上 総 利 益		10,000	← 当期回収(到来)高に対する利益

貸 借 対 照 表

流動資産		流動負債	
割 賦 売 掛 金	60,000	繰 延 売 上 利 益	15,000
商 品	15,000		

または

貸 借 対 照 表

流動資産		流動負債	
割 賦 売 掛 金	60,000		
繰 延 売 上 利 益	△15,000		
商 品	15,000		

※ 未実現利益の整理＝戻入・控除の計算

<回収基準>

割賦売掛金			
(前期分)			
期首残高	××	回収	×
(T/B繰延売上利益)	××	未回収	
(当期分)			
T/B割賦売上		回収	
(当期販売高)		未回収	×
		T/B割賦売掛金	
			(前期利益率) = (戻入)
			(当期利益率) = (控除)

<回収期限到来基準>←未回収でも期限が到来していれば収益は実現

※ 未回収・期限到来分の割賦売掛金の処理

- ① 期限到来分は売掛金、期限未到来分は割賦売掛金と区別するパターン
→期末に売掛金 a/cへ振替える ⇒ 売掛金 ×× / 割賦売掛金 ××
- ② 期限到来分、期限未到来分ともに割賦売掛金と区別しないパターン
→割賦売掛金 a/cのまま ⇒ 仕訳不要

(注)①の場合には指示があり、指示がなければ②になります。

① 区別するパターン(期首割賦売掛金に前期末期限到来済みのものが含まれていない)の場合

割賦売掛金			
(前期分)			
期首残高	××	回収	×
(T/B繰延売上利益)	××	未回収	到来
			未到来
(当期分)			
割賦売上		回収	
(当期販売高)		未回収	到来
			未到来
			×
			(前期利益率) = (戻入)
			(当期利益率) = (控除)

② 区別しないパターン(期首割賦売掛金に前期末期限到来済みのものが含まれている)場合

割賦売掛金			
(前期分)			
期首残高	前期到来 ××	前期到来(回収)	
	××		
	前期未到来 ××	回収	×
(T/B繰延売上利益)	××	未回収	到来
			未到来
(当期分)			
割賦売上		回収	
(当期販売高)		未回収	到来
			未到来
			×
			(前期利益率) = (戻入)
			(当期利益率) = (控除)

前期に実現しているので戻入×
(利益を貯めていない!)

6 回収不能高(貸倒れ)と戻り商品 (P138～)

テキストの前提

- ① 未実現利益整理法の処理
- ② 前期販売分(前期末未実現)が当期に回収不能

代金が回収不能になった場合に、返してもらった商品のこと。再販売が可能な場合には、評価額を当期の仕入に加算する。

「基本処理」

※ 回収不能時の仕訳パターン (利益の精算がポイント！)

- ① 回収が不可能と判断された割賦売掛金を減額(債権放棄)し、実現(回収・期限到来)したときに戻入をするために貯めてあった利益を消します。(回収不可能→実現しない→戻入できない→利益を消します)
- ② ①の仕訳の差額で求められた原価相当額と戻り商品の評価額との差額を戻り商品損失とします。(通常の貸し倒れとは違い、商品が戻ってくるので商品の価値減少分が損失となります！)

(繰延売上利益)	××	(割賦売掛金)	××
	精算額		不能額
(戻り商品)	××	} 原価相当額××	
	評価額		
(戻り商品損失)	××		
P/L販売費	差額		

※ 戻り商品の取扱い(決算整理～売上原価の計算～)

戻り商品は再販売が可能な場合には、その評価額を新たな仕入と考えて、仕入勘定に振り替えます。また、期末に未販売であった場合には、次期に繰越すために繰越商品勘定に振り替えます。

(仕入)	××	(戻り商品)	××	←再販売可能な場合！
当期仕入に加算				
(繰越商品)	××	(仕入)	××	←期末未販売の場合！

(おまけ) 再販売が不可能の場合、本試験では「貯蔵品として処理」という指示が出たことがあります

原価ボックス(重要！)

期首商品 T/B繰越商品	××	売上原価 (差額)	××
当期仕入 T/B仕入	××	期末商品 戻り商品以外	××
戻り商品評価額 (再販売が可能)	××	戻り商品評価額 (期末未販売)	××

※ 未実現利益の整理・精算額の把握

割賦売掛金

(前期分)	回	収	××	×前期利益率=戻入	
期首残高	回	収	不能	××	×前期利益率=精算額
(期首繰延売上利益)	未	回	収		
(当期分)	回	収			
割賦売上					
(当期販売高)	未	回	収	××	×当期利益率=控除

「設例4-9」

(1) 売上原価の計算と利益率の計算

原価ボックス

T/B 繰越商品	10,000	売上原価
T/B 仕入	140,000	
戻り商品	_____	手許商品
P/L 仕入高	_____	戻り商品
		P/L 期末商品

(2) 未実現利益の整理・精算額の把握

割賦売掛金

(前期分)	回収	×	(前期利益率) =	(戻入)
期首残高	回収不能	×	(前期利益率) =	(精算額)
(T/B繰延売上利益)	未回収			
(当期分)	回収			
割賦売上				
(当期販売高)	未回収	×	(当期利益率) =	(控除)

T/B割賦売掛金 84,000

(3) 回収不能分の処理

(繰延売上利益)	(割賦売掛金)
(戻り商品)	原価相当額
(戻り商品損失)	

繰延売上利益

精算	T/B(期首) 12,000
戻入	
B / S	控除

【解答用紙】

損益計算書

I 売上高		
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高		
2. 当期商品仕入高	_____	
合計		
3. 期末商品棚卸高	_____	_____
修正前売上総利益		
繰延売上利益戻入		
繰延売上利益控除		_____
売上総利益		
III 販売費及び一般管理費		
1. 戻り商品損失		_____
営業利益		_____

貸借対照表

割賦売掛金	繰延売上利益
商品	

※ 回収不能時の処理のまとめ (P144)

回収不能時の仕訳には、いくつかのパターンがあります。代表的なものは2つです。

(1) 繰延売上利益を精算するパターン

(繰延売上利益)	3,000	(割賦売掛金)	15,000
(戻り商品)	7,000		
(戻り商品損失)	5,000		

(2) 繰延売上利益を精算しないパターン

(繰延売上利益)	×	(割賦売掛金)	15,000
(戻り商品)	7,000		
(戻り商品損失)	8,000		

1 回収基準の場合

回収基準の場合、単純に「前期販売分(期首残高)」と「当期販売分」で仕訳パターンが変わります。

① 前期販売分(期首残高)の場合	繰延売上利益の精算をします！
② 当期販売分(当期発生)の場合	繰延売上利益の精算をしません！

割賦売掛金

(前期分=前期末実現)	回収	×	(前期利益率) =	(戻入)
期首残高 60,000	回収不能 ① 15,000	×	0.2 (前期利益率)	= 3,000 (精算)
(T/B繰延売上利益 12,000)	未回収			
(当期分)	回収			
割賦売上 ××	回収不能 ② 15,000			まだ利益を繰延べていないので、貸し倒れても利益の精算は必要なし！
(当期販売高)	未回収	×	(当期利益率) =	(控除)

① 期首(前期販売分)の割賦売掛金が回収不能になった場合

回収基準の場合、期首割賦売掛金=前期末未実現になっています。



期首割賦売掛金は前期末の決算で未実現の利益をストックしていますので、回収不能になった場合には、繰延売上利益を精算します。

(繰延売上利益)	3,000	(割賦売掛金)	15,000
(戻り商品)	7,000		
(戻り商品損失)	5,000		

(注) 前期末に貸倒引当金の設定対象になっている場合には、戻り商品損失ではなく、貸倒引当金で仕訳をします。

② 当期販売分の割賦売掛金が回収不能になった場合

当期に発生した割賦売掛金は決算を通過していませんから利益をストックしていませんので、回収不能になった場合に、繰延売上利益を精算する必要はありません。

(繰延売上利益)	×	(割賦売掛金)	15,000
(戻り商品)	7,000		
(戻り商品損失)	8,000		

2 回収期限到来基準の場合

回収期限到来基準の場合でも、回収基準と同様に「期首残高(前期販売分)」と「当期販売分」で仕訳パターンが変わります。

さらに期首残高(前期販売分)について、「前期末期限到来分」と「前期末期限未到来分」で仕訳パターンが変わります。

期首残高(前期販売分)の場合	① 前期末期限到来分 (前期末実現)	繰延売上利益の精算をしません!
	② 前期末期限未到来分 (前期末未実現)	繰延売上利益の精算をします!
③ 当期販売分(当期発生)の場合		繰延売上利益の精算をしません!

割賦売掛金			
(前期分)	前期到来	回 収 20,000	前期に実現しているので戻入×
	35,000	回 収 不 能 ① 15,000	前期に実現しているので 貸し倒れても利益の精算は必要なし!
期首残高 95,000	前期末到来 60,000	回 収	× (前期利益率) = (戻入)
		回 収 不 能 ② 15,000	× 0.2 (前期利益率) = 3,000 (精算)
		未回収 到 来	× (前期利益率) = (戻入)
		未回収 未到来	
(T/B 繰延売上利益 12,000)			
(当期分)		回 収	
		回 収 不 能 ③ 15,000	まだ利益を繰延べていないので、 貸し倒れても利益の精算は必要なし!
割 賦 売 上 (当期販売高)		未回収 到 来	
		未回収 未到来	× (当期利益率) = (控除)

① 前期販売分の割賦売掛金のうち前期末期限到来分が回収不能になった場合

回収期限到来基準の場合には、期首割賦売掛金＝前期末未実現ではありません。

期首割賦売掛金のうち、前期末期限到来分は前期末の時点で実現しているので、利益をストックしていませんので、回収不能になった場合に、繰延売上利益を精算する必要はありません。

(繰延売上利益)	×	(割賦売掛金)	15,000
(戻り商品)	7,000		
(戻り商品損失)	8,000		

② 前期販売分の割賦売掛金のうち前期末期限未到来分が回収不能になった場合

期首割賦売掛金のうち、前期末期限未到来分は前期末の時点で未実現なので、利益をストックしていますので、回収不能になった場合に、繰延売上利益を精算します。

(繰延売上利益)	3,000	(割賦売掛金)	15,000
(戻り商品)	7,000		
(戻り商品損失)	5,000		

③ 当期販売分の割賦売掛金が回収不能になった場合…回収基準と同じ!

当期に発生した割賦売掛金は決算を通過していませんから利益をストックしていませんので、回収不能になった場合に、繰延売上利益を精算する必要はありません。

(繰延売上利益)	×	(割賦売掛金)	15,000
(戻り商品)	7,000		
(戻り商品損失)	8,000		